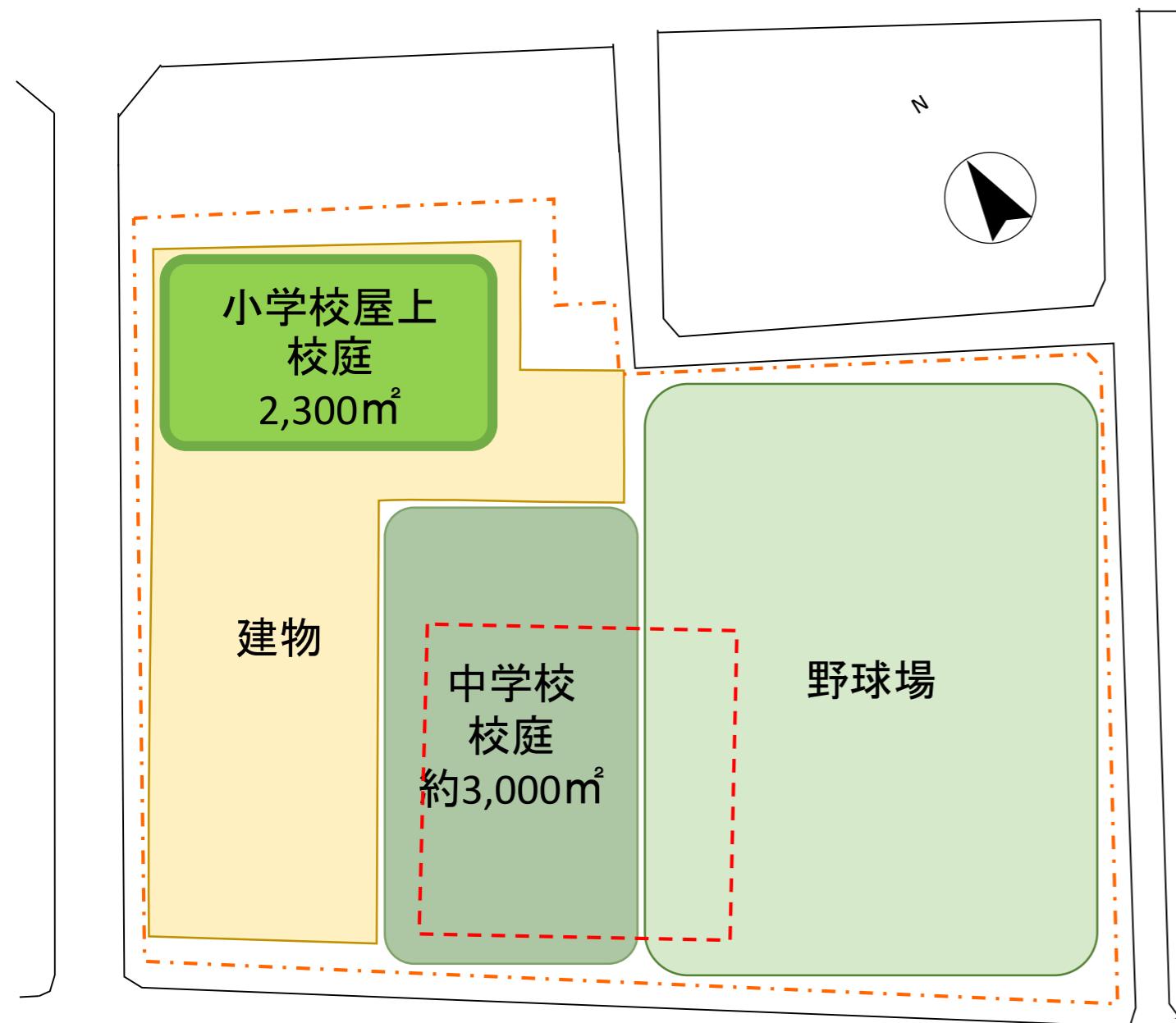
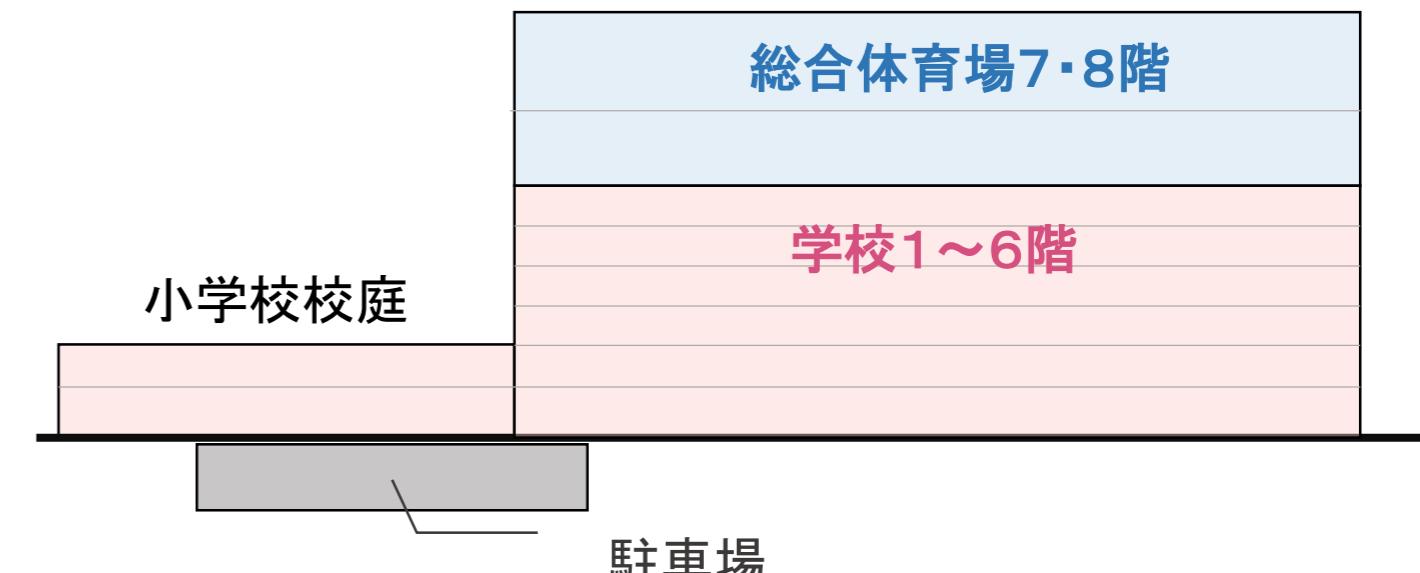


(1) 平面配置図



(2) 断面構成図

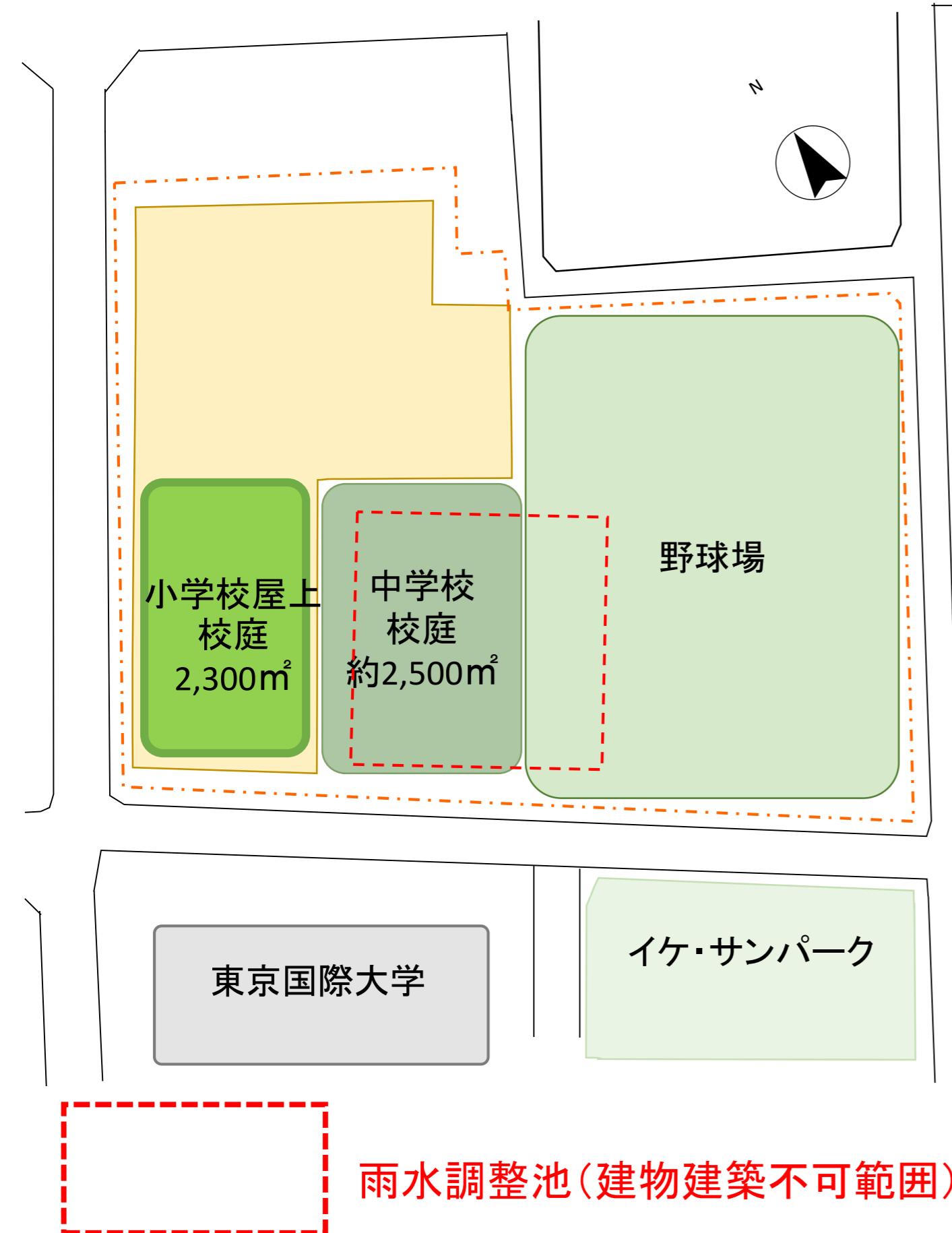


特徴

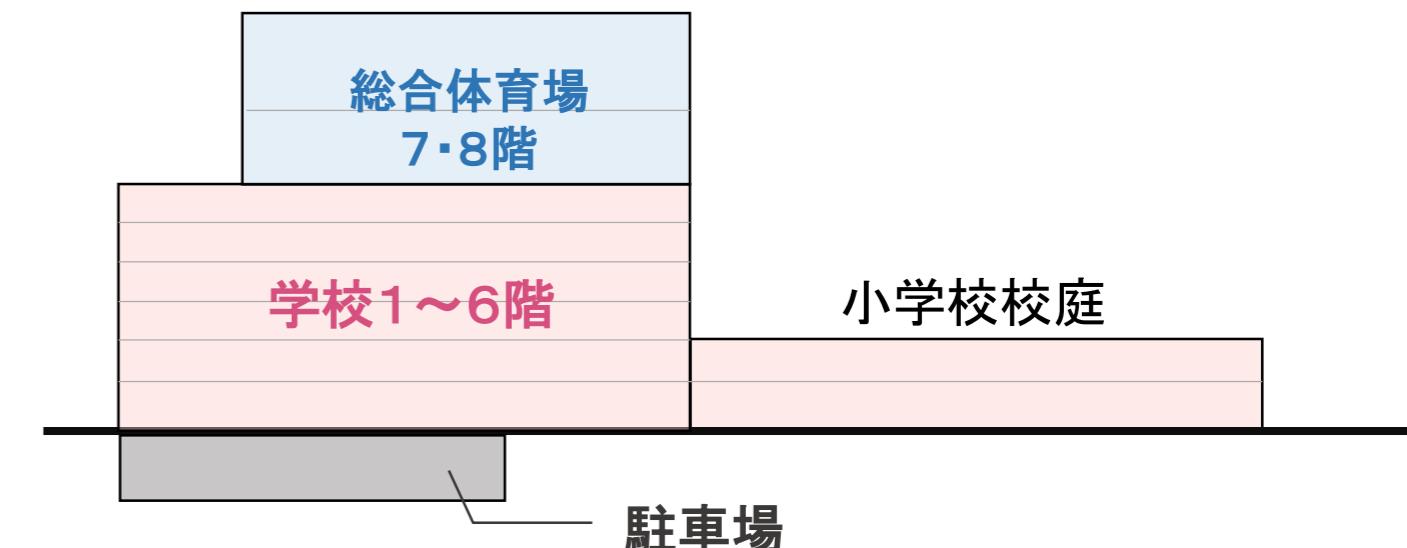
- ・小学校校庭を屋上に確保することで、建築面積が広くなるため、校舎内を広く活用することができる。
- ・小学校校庭は、現在の面積と同等だが、中学校校庭は3400m²と既存より広く確保することができる。
- ・建物の低層部が北側に位置するため、敷地北側への日陰の影響を少なくすることができる。
- ・屋外階段で両校庭を緩やかにつなげることが可能

平面配置案～小学校屋上校庭②

(1) 平面配置図



(2) 断面構成図

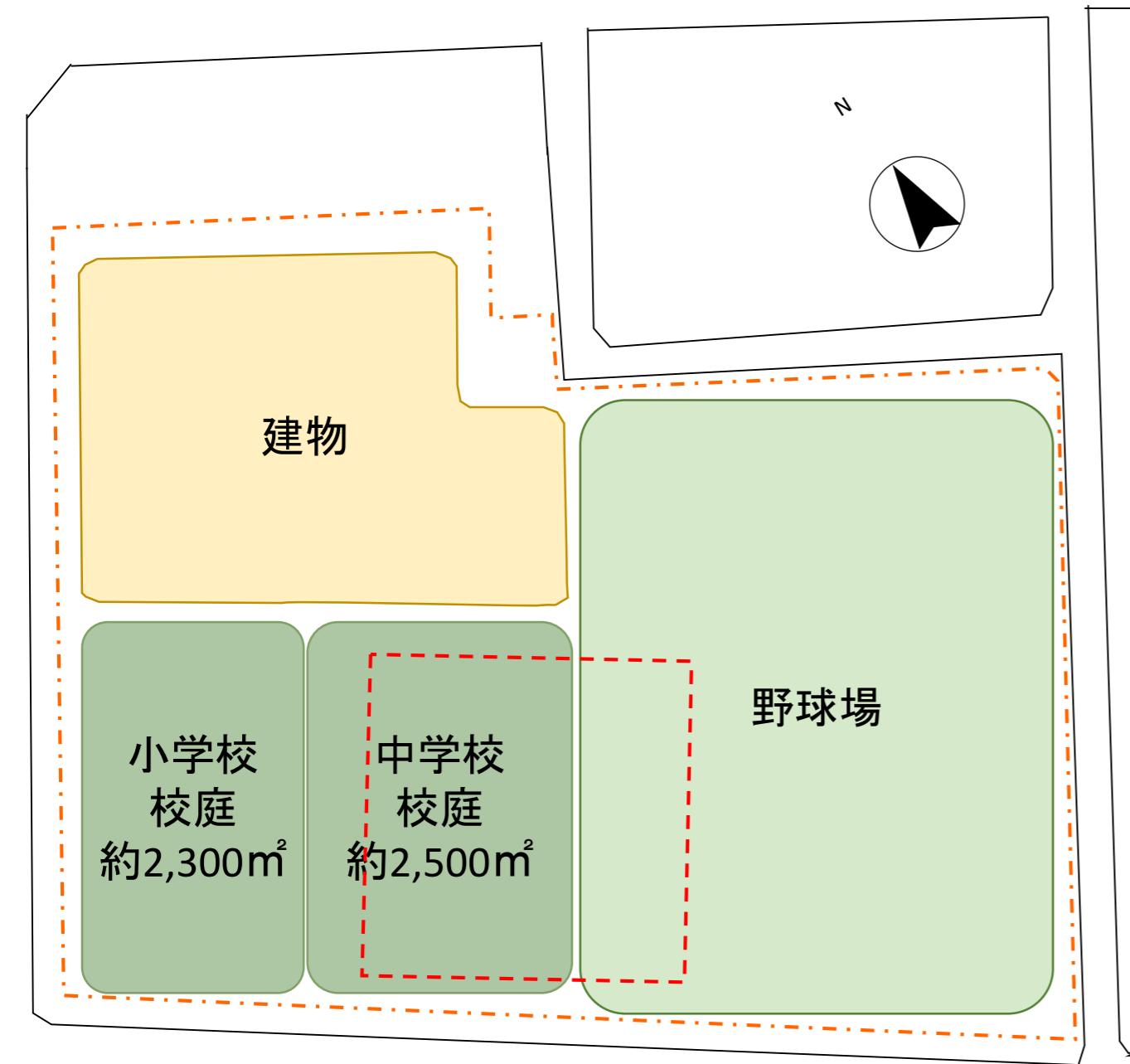


特徴

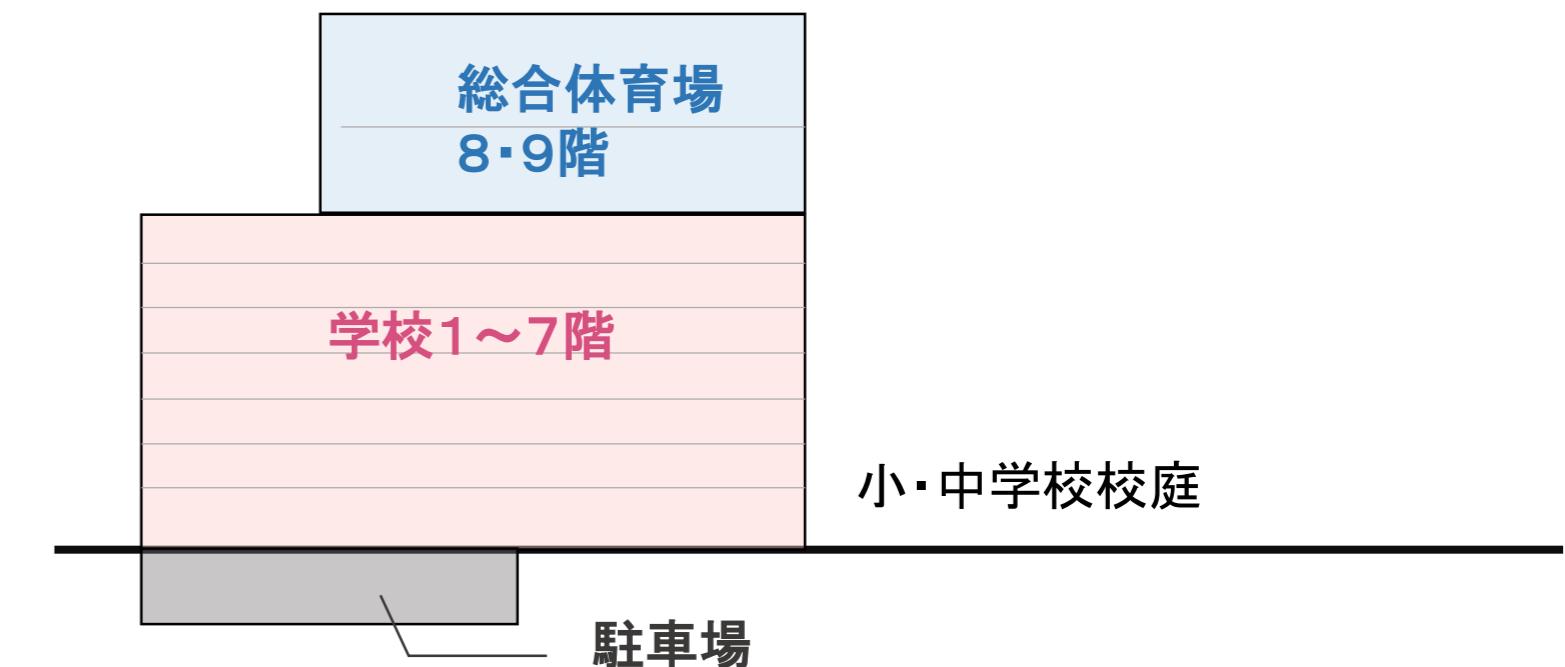
- ・小学校校庭を屋上に確保することで、建築面積が広くなるため、校舎内を広く活用することができる。
- ・小学校・中学校ともに既存の校庭と同等の面積を確保できる。
- ・建物の高層部が北側に位置するため、敷地北側が日陰になりやすい。
- ・小学校校庭と中学校校庭の相互のアクセス性を高める工夫をする必要がある。

平面配置案～小学校・中学校校庭を地上に確保①

(1) 平面配置図



(2) 断面構成図



特徴

- ・小中学校の校庭を地上に確保するため、建築面積が狭くなり、校舎内で広いスペースを確保しにくくなる。
- ・小学校・中学校ともに既存の校庭と同等の面積を確保し、一体的に校庭を使用することができるため、イベント時には4800m²の校庭を確保することが可能
- ・建物が高層で北側に位置するため、敷地北側が日陰になりやすい
- ・小中学校校庭を地上で確保するため、小学校エリアと中学校エリアの切り分けが困難

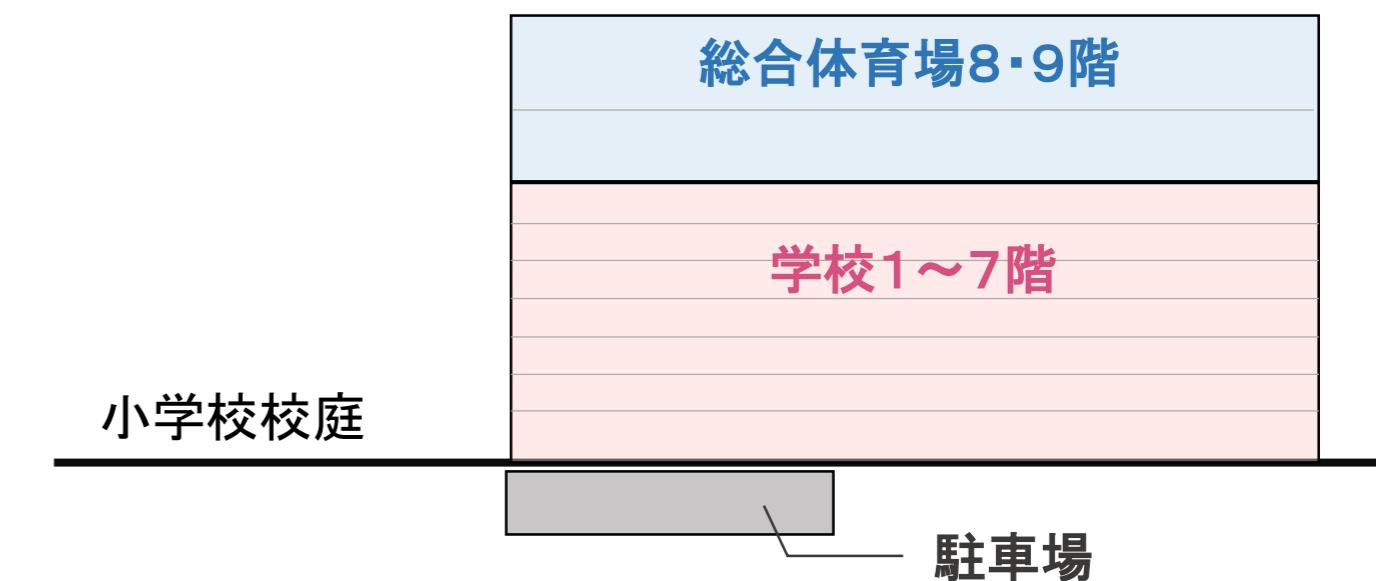
雨水調整池(建物建築不可範囲)

平面配置案～小学校・中学校校庭を地上に確保②

(1)平面配置図



(2)断面構成図



特徴

- ・小中学校の校庭を地上で確保するため、建築面積が狭くなり、校舎内で広いスペースを確保しにくくなる。
- ・小学校・中学校ともに既存の校庭と同等の面積を確保できる。
- ・地上校庭が北側に位置するため、敷地北側への日陰の影響を少なくすることができます。
- ・両校庭を地上に確保しつつ、ピロティで緩やかにつなげることが可能